



こんにちは2021(令和3)年 ～3学期始業式 校長講話より～

年末年始休業中にも、様々な出来事がありました。

中でもとても気になるのは、新型コロナウイルスの感染状況です。佐久地域も病院や他県からの帰省者を中心に感染者が拡大し、長野県では1月3日に佐久圏域をレベル3から4の特別警報に切り替えました。皆さんは、日頃の消毒や密を避ける、県外や人が混みあう場所への不要不急の外出は避けるなどの行動をしっかりとってください。また授業時の換気にも注意して、万が一感染者が出たらどうするか想定しての行動を行ってください。

さて今年も、お正月にテレビを観ていて感動したのが、大学生が走った箱根駅伝です。今回はやはり新型コロナウイルスの影響で、応援団がおらず、観客もまばらな異例の開催になりました。

結果は、今年の勝者、青山学院大は総合4位になり、駒澤大学が最終10区のまさかの逆転で創価大学を追い抜き、総合1位になりました。駒沢大で最終10区を任されたのは、3年生の石川拓慎選手でした。

石川選手は「たすきをもらう時点で少し差があったが、諦めずに、去年、同じ区間で悔しい思いもしたので、やってやろうとゴールテープに向かって走った。練習なども、いつもと違う1年を過ごしてきた、たすきにもみんなの強い思いがこめられていて、自分に任された役割を果たしたいと思った」と話していました。いまの話にあった通り石川選手は昨年も同じ10区を任されていました。しかし、最後の最後で早稲田大学に追い抜かれてしまいました。その時の悔しさをばねに、1年間黙々と練習に励んできたわけです。つまり石川選手の目標設定と努力は、1年前からこの日に向けて始まっていたのです。皆さんはどうでしょうか？ 新年は、1年の目標を決め、誓いを立てるのにまたとない良い機会です。昨年を反省し自分の将来をよく考えて行動に移してください。

最期に、3学期はとても短い学期です。今日と卒業式を入れて、3年生はわずか20回、1・2年生は38回学校に来れば今年度も終了です。1日1日を大切に、周囲に気を配りながら、日々「良い学校」になる取り組みを積み重ねてください。

3学期が充実した学期になることを願っています。



困ったお話(その20) (「笑い」は世につれ)

単身先にテレビがなく困っている私でも、年末に実家で毎年観る番組がある。それは「M-1グランプリ」だ。ハングリーな若手芸人から繰り出される渾身の漫才は、爆発的なおもしろさがある。中でも今回優勝した「マヂカルラブリー」。野田クリスタルによる奇想天外なボケの破壊力は圧倒的だった。笑った笑った。

また、「笑い」は生きた言葉を扱う感覚的なものだから、時代や時流によって変化することにも気付かされた。考えさせられたのは前回の「ペコぼ」だった。最初の紹介でボケのシュウペイがツッコミ松蔭寺の前に立ちだかっ。従来のツッコミだったら「かぶってるわ！どけェアホ！」とボケをなじるのが相場だ。しかし、松蔭寺は「いや～かぶってる。ならば俺が避ければいい！」「もう誰かのせいにするのはやめにしよう！」と、自分の一旦入れたツッコミを回収した上に前向きボケ発言まで言っていた。これは、他人の欠点や失敗をいじってウケをとる旧来(70年代後半～)の笑いが転換期に入ったと思われた出来事だった。

その背景に、人権意識の進展があるのは言うまでもない。

